

モノ創りの村を志し、
木工振興担当桑葉の

続

木育ひとりごと

みんなが思う木材は主に板や角棒といったものを頭に浮かべると思います。**あれ？木材って木育じゃない？**木材もはじめは自然界に立ってる立木です。立ち木から一般的な木材に変わるまで色々な工程が行われているんです。

そんな木材が出来るまでには ①立ち木を切り倒す伐倒 ②伐倒材を製材機にて製材 ③製材した材を自然乾燥 ④自然乾燥した材を人工乾燥 ⑤乾燥材を更に製材。大まかに5つの工程を経て木材は出来ています。こう考えると私たちが目にする木材はいろいろな人の手が加わっていることがわかんと思います。

木工業に関わる中に見落としがちだが木を感じるだけで木祖村はしっかり木育を行っています。都会で見慣れぬ木材ですが、私たちの生活の一部になるまで溶け込んでいるので少し感じてみてください。(桑葉)



地域おこし新聞

木祖村地域おこし協力隊員による

8,9月号

木祖村地域おこし協力隊

Instagram @kisomura_okoshi

Facebook @kisomura_okoshi

Twitter @kisomura.okoshi

お問い合わせは上記SNSや、下記メールへどうぞ！

Email kisomura.okoshi@gmail.com

地域おこし新聞のバックナンバーや地域紙の特別掲載、最新映像など、協力隊の情報が盛りだくさん！！な、公式ホームページも是非ご覧くださいませ◎(上のQRコードよりHPをご覧くださいませ。)

お六の櫛のエトセトラ

こんにちは、今回は4寸、5寸など櫛の大きさ、長さによく使われる尺貫法(しゃっかんほう)について調べてみました。昨今、メートル法が主流になっていてなかなか触れる機会がなかったので調べてみるといろいろと発見がありました。



1寸は約3cm。1尺は約30.3cm。1間は約181.8cmなどの単位で十進法と六十進法などが混在しています。アルプス一万尺はこの尺のことで、だいたい約3030mの高さという意味のようです。ちなみに、1里は約3927mで人間が1時間に歩くのにちょうど良い距離とのこと。「千里の道も一歩から」目の前のことを一歩ずつ地道に積み上げていくことが大切であるということなのですが、最低でも千時間地道に積み上げていきなさい、とも解釈できるなあ。と思いました。一歩を踏み出すことと、長く続けることどちらも大切にしようと思います。(井上)

農事風土記

農業担当の丸山隊員が農業にまつわる風土や文化、その他諸々について語ります

今回のお話は「草を活かして畑を守る」です。

夏の畑では、作物の根元がカラカラに乾いたり、雑草が勢いよく伸びたりと、管理が大変です。丸山隊員が取り組んでいるのは、その両方を一度に解決してしまう「間作(かんさく)」という工夫です。例えばナスの畝(うね)と畝の間に大麦をまきます。大麦は夏の途中で自然に枯れ、その後は麦わらのように土を覆ってくれます。これが「天然のマルチ(地面を覆う資材)」となり、土の水分を逃がさず、雑草も生えにくくしてくれるのです。さらに、この大麦には小さな虫たちのすみかになる効果も。

アブラムシを食べてくれるテントウムシなど、作物の“味方”を呼び

込んでくれます。「草はただ抜くだけでなく、上手に使いえば畑の力になるんですよ」と丸山隊員。自然の力を借りながら、作物も人も気持ちよく過ごせる畑づくりが、今日も進んでいます。

